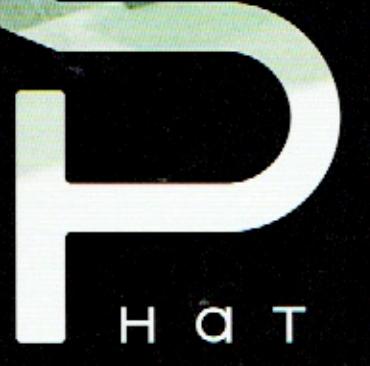


新しい才能を見つける未来に繋げる写真雑誌

別冊付録 写真を学べる大学 & 専門学校ガイド 2017



PHOTO

100
ISSUE

7-8月号

Vol.100

FEATURE

伝説の写真家

張照堂
マルティン・チャンピ
アルノ・ラファエル・ミンキス
ヨゼフ・ステク
マリック・シティベ
平敷兼七
鈴木清
飯田幸次郎
中平卓馬
東松照明
柳沢信
ソールライター
深瀬昌久



熊谷聖司 橋本照嵩 兼子裕代 ロジャー・バレン×アスガード・カールセン

国際フォトフェスティバル

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO レポート

橋本照嵩・「瞽女」

文=小倉快子 (BOOKS f3) Yasuko Ogura



瞽女⁽¹⁾という言葉を聞いたことがあるだろうか。ひと言でいうと、三味線を弾き、唄を歌い、各地を巡る盲目の女旅芸人のことだ。全国各地で活動していたが、中でも新潟は地域ごとに瞽女集団が形成されていた。明治はじめ頃、新潟県長岡地方には400名ほどいたと言われている。橋本照嵩さんがはじめて瞽女さんに興味をもつたのは、1969年に高田瞽女の杉本キクイさん⁽²⁾が国の無形文化財になつたという記事を見たときのこと。

「読んでいて、これだと思ったんですね。それで『アサヒグラフ』に瞽女の写真を撮りたいとお願いし、それからすぐ杉本さんに会いに新潟に行きました。そのとき、養女が風邪を引いているから人をあげられないと断られたのですが、長岡にまだ旅をしている他の瞽女さんがいると教えてもらい、飛びつきましたね。翌日、会いに行こうとしたのですが、局ド力雪で会えなくて東京に帰ることに。でも諦められませんでした。もう一度行って、瞽女さんの写真を撮りたかった。それから色々な人に会って情報を聞いて、電話をしたり、手紙を書いたり、撮影していくよと言われるまで、結構大変だったんです。でも取り憑かれたみたいに、これしかないとつたんですね」。

ようやく許可を得た橋本さんは、1972年の春から2年間、金子セキさん、中静ミサオさん、開谷ハナさんの3人組の長岡瞽女同行し、撮影を行った。「瞽さんは男を連れて歩かないんですけど、でもついて来るなって言われても、ついていかないわけにはいかないんです

よ。眼の前からいなくなつたら撮れないから。何度も、「おらたちと歩くと位が下がる」とか、「写真撮つてもおらたち見えねすけ、そんなものいらねんだ、とにかくついて来るな」と言われましたね。でも気にしちゃだめなんですよ。しばらく村々と一緒に通っているうちに、行動がわかつてくるんです。瞽女さんは門付け^(※1)で「ごめんなんしょ」と玄関から声をかけて、声がしないと留守かと思つて次へ行つてしまふ。そういうときに、自分が家の裏に回つて、家主を呼んで来たりすると、百発百中で村を唄つて回ることができると、百発百中で村を唄つて回っていると、男手引き^(※2)と言われたりしましたね。そうしているうちに、金子さんが「この人、おらたちの写真撮つてくれる人だけ」と言つてくれるようになつたんです。この関係性が大事なんですよね。そうすると、苦から楽になるというか一緒に旅をするのが至福の時間になるわけです。一緒に瞽女宿^(※2)に泊めてもらつたりすると、食事をしているときや風呂に入つて写真が撮れる。それは嬉しかつたですね」。

橋本さんが、瞽女さんを撮るときのボイントとして、『生活者としての瞽女さん』という視点があつたと言う。それは距離の近さに表れている。2年という歳月を共にし、冗談のような本音のよう話で笑いあえる関係を築いた橋本さん。見えない瞽女さんが、まるでそこが見えているかのように歩いたり、座つたり、唄つたりする暮らしの力強さが見事に写しだされている。

はじめとしょこう
1939年宮城県石巻市生まれ。1974年に写真集『瞽女』(のら社刊)出版にて日本写真協会新人賞受賞。精力的に写真展や写真集を発表している。近著に、『新版北上川』(春風社)、『西山温泉』(叢書『くさむら』)(ZEN FOTO GALLERY)などがある。